

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含まれます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含まれます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれんど
(ユニット名)	はこねユニット
所在地 (県・市町村名)	静岡県御殿場市川島田1084-1
記入者名 (管理者)	記入者 吉田 友子(計画作成担当者)
記入日	平成 20年 2月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「その人らしくそしてすべての人に支えられる生活空間～地域の方々、家族に支えて頂きながら、その人らしく安心して過ごしていけるようにと、スタッフ全員が意思統一はかり、日々努力している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すででの職員が、運営理念を実現できるよう、職員室やユニットへ理念を掲示し、常に理念を目標に頑張っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域に対する運営理念の啓発・広報としてボランティア連絡協議会に参加し、ホームの紹介をしている。家族や面会に来られる方には、ホーム便りを配布し、啓発・広報に取り組んでいる。家族連絡会・運営推進会議も定期的開催して、運営理念の啓発を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事活動には参加を呼びかけたり、園芸ではお花や野菜の苗を頂き、時にはお手伝いしてもらい、夏場を主に野菜を育てている。入居者との散歩中中には、歩いている方へあいさつを交わしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議開催後、地域行事の予定を伺い参加できそうな行事へは、積極的に参加し地元の人々の交流を、楽しんでいる。	○ より一層、多くの行事活動へ参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、地域より提供して頂いてる行事への参加しかできていない。	○	地域へとけ込んでいけるよう、こちらからお手伝いできる行事は積極的に取り組み、地域へ貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意識は、充分理解している。評価結果を職員に周知してもらい、全体ミーティングを通してサービス改善に活している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設を理解して頂くために報告は行っている。報告内容で意見を求め、適切な助言・アドバイスをもらいより良いサービス提供を目指している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との意見交換会で、入居者状況を報告し、現状の情報提供を行って連絡を密にとり、市町村との連携に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	理解している職員はほとんど居ないため、今後の課題とし、勉強会を開催し、活用できるよう頑張っていきたい。	○	職員ひとりひとりが、制度の理解ができるよう、勉強会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないと職員ひとりひとりが理解している。しかし、常に見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	職員ひとりひとりが、制度の理解ができるよう、勉強会を持ちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接している老健施設の勉強会へ参加させてもらい、また外部から研修へ場合は、報告会をもうけ職員に周知している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会を持つことが現在ではできていない。	○ ネットワーク作り、勉強会等の活動を地域の同業者と行い、サービスの質を向上させたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦を図るため、業務外でのインフォーマルな集まりを開いている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的にヒアリングの機会を持ち、指導を行い各自が向上心を持って働けるように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者ひとりひとり細かく把握できるよう、担当制を導入している。本人の意思を尊重していくよう常に受けとめる努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会の機会をつくり、家族の相談から利用に至るまで、安心できる場を提供していけるよう努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会を行いアセスメントを行って、課題を明らかにし、まず必要としている支援を見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたりその人の今まで生きてきた生活を知り、入居後、安心したホーム生活に入っていけるよう、マンツーマン対応している。徐々に馴染んでいけるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ひとつの家族と考えている。個々の特技を生かし教えたり、教わったりとそれぞれの活躍の場面作りへ働きかけ、感謝の気持ちを持って対応している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流は面会時行っている。お茶を出し入居者とともにの会話は弾む。行事などへの家族参加を行い、小旅行や年中行事を楽しみ家族と一緒に支えていく関係を築けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思いと、家族の思いを受け入れ、両者が楽しく交流できより良い関係が築けていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てくтер方には、心地よく交流ができるよう場の提供をし、もてなしている。	○	入居者にとって馴染みの人は、生きてきた人生の中で大切な人であると思う。もっとたくさんの方に来てもらうよう呼びかけていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝のあいさつを個々に交わしている。入居者同士のいたわり合いは、心とんている。団らんのひとときには、全員が揃い交流し合い関わりあっている。	○	2ユニットあるので、普段より行き来が活発になり、にぎやかで楽しいホーム作りを築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、「いつでも遊びに来て下さい」と声かけを促している。また、他の施設へ行かれた方の方へ会いに行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ひとりひとりの特徴を踏まえて行いたい事など把握している。困難な場合はアセスメントを参考に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査を行い、アセスメントを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントを行っている。また、ひとりひとりの状態観察をし記録。現状を総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン作成時は家族や本人より要望を聞き、参考に毎週の火・金でカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。作成したものは家族へ同意をとっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月で評価、6ヶ月認定更新時に見直しを行っている。しかし、状態が変わった時には随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスへ中止事項を記載し、介護支援経過へは支援経過を記入し、職員が誰でも把握できるようにしている。日常系勝つの記録も毎日カルテへ記入し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ひとりひとりの話には、耳を傾け受容している。その都度対応に心がけ、その人らしさを尊重し、人格を傷つけない態度で援助している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々と交流しやすい行事への参加を呼びかけてもらい参加している。定期的にボランティアの来居もあり楽しいひとときを過ごしている。また、運営推進会議開催を通し地域の協力を得て防災には力を入れている。	○	隣接している保育園児とは、行事時等来居してもらい交流をはかり楽しんでいる。今後、学校機関との関わりをもち交流をはかって行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今後どのような形で話し合い他のサービスを利用していか、今後の課題としていきたい。	○	他のサービスには、例えばどのようなものがあるのか情報を集め、実現していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、メンバーとして出席してもらっている。必要性に応じてアドバイスをもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望にあわせて受診を行っている。家族が行かれない場合は職員が付き添って行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接している老健の医師に指示や助言をもらっている。また、隣接している病院があり、受診時には待たなくて受診できるようオンコール対応をしてもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している老健があるので、何かあればまずナースへ相談できるので安心である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関より情報提供をいただき、早期退院に向けて話し合いや協力を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から、家族や協力機関の老健やかかりつけ医等と話し合い、全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	カンファレンスの場で検討し、協力機関の老健やかかりつけ医とともに、連携し、支援に取り組んでいる。今後の変化に備えての検討は段階がきた時点で、検討を随時行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居の前後は、十分関係する担当者で連携をとって、情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その都度の言葉かけ対応には、その人らしさを尊重し、人格を傷つけない態度で常に援助している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	色々な場面で選択をするものには、わかる力にあわせ説明し、決定してもらう機会を多く作っている。また、場面々の状況へは本人の納得を得ながら心配かけないよう暮らせる支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の業務をしても手を休め、入居者のペースを優先し、対応している。何をしたいのか？傾聴し一緒に行く。信頼関係が失われないように希望にそって支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれには気を配っている。衣類の調整には場面々で優しい声掛けにて不服を与えずさりげなく支援している。散髪希望者へは、予約を入れ付き添っている。さっぱりした髪型に声かけし、喜ばれる気持ちを大切に受けとめている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは一緒にに会話しながら楽しく行っている。食器は個々の好みで使用している。きざみ食等ひとりひとりの健康状態に合わせて調理している。食事には、入居者の間に入り、会話も弾み楽しく食べている。常に周りに気を配りながら食べこぼし等にもさりげなく対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については、家族が面会時に持ってきてくれたり、毎週土曜日に個別買い物の日をもうけているので、職員と一緒に出かけ本人の欲しいものを購入してきたりと日常的に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	皆さん排泄については、自立されているが、ひとりひとりのパターンにより、紙パンツを使用し、気持ち良くいられるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の健康状態や気分に合わせて、入浴を促している。時間帯は本人の希望に合わせて入っている。ひとりひとりの入浴スタイルを把握し、安全にゆったり入浴ができるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間良く休めるよう、昼間はなるべく起きていられるようリハビリへ誘ったり、活動の場をつくっている。また、疲れた様子が見られる方へは、お部屋で休むよう声かけし休息できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりの介護計画に合わせて分担してもらっている。生活パターンができていますので、自らやってくれる場面も見られる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望にて、すべて自己管理している方もいる。ホームで預かっている方は、ひとりひとりの力に応じて買い物で支払い時、本人へお金を渡しレジで精算してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望にそって、お散歩へ出かけたり、ドライブへ出かけたり、買い物へ行かれたりと、外へ出かけられる機会がもてるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ時間に本人の行きたい場所を聞き出かけている。また、行事活動では、季節に応じて家族へも参加を呼びかけて、バス旅行に出かけたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われた時は、回す手伝いをし、通話し安心感が持てるよう支援している。また、届けものが来た時には、お礼の電話を入れている。	○	昔は、手紙を書く機会が多くあったと思う。今後、絵手紙をレクに取り入れ、大切な家族や、大切は方へ出し、たくさんの方が来居してくれるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰にでも気軽に来れるよう、来られた時には居心地良く過ごして頂くために、お茶を出しおもてなしをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、正しく確認しており、身体拘束のないケアができるように努力している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。やむを得ず鍵をかけなければいけない状態については、家族にその理由を説明している。夜9時に玄関の戸締りをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングにか必ずひとり職員がいるように努めている。離れる時には、どこへ行くのかを伝え、職員同士の声かけで居場所の把握をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬については、入居者の目の届かない高い場所に保管している。洗剤刃物は、使用しない時は流しの下へ保管しロックしている。脱衣所にある洗剤には、カーテンで目隠しをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと・事故報告書の提出報告にて、火金のミーティング時、再発防止へ向けた話し合いえおし、サービス改善へつなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	隣接している老健での勉強会に参加し、緊急時の対応の勉強をしている。また、対応はマニュアル化して、職員が把握できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に自主避難訓練を実施している。また、運営推進会議を通じ、日頃より避難場所の確保をし、通気防災訓練への見学もさせてもらい、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○	緊急事態に備え、自主訓練を定期的に行っているが今後はもっと細かく役割・担当などいつでも的確な対応ができるよう、訓練を継続していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活全般に起こり得るリスクについては、家族へ説明している。しかし、なるべく抑圧感のない生活を大切にしたいので、それに対する対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の変化や異変の発見に努めている。異変時、その都度家族へ連絡を入れ、対応策の相談をしている。緊急を安し、連絡が取れない場合には、あすなる師長や医師の指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表へ処方せんをファイルしている。また、服用チェック表があり、確認のためチェックするようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度の運動への声かけ、促しは行っている。食事でも食物繊維質や乳酸菌の献立の取り組みをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ひとりひとりの合わせ口腔ケアを行い、入れ歯の方のポリデント洗浄は定期的に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量については、ひとりひとりにあわせ把握している。栄養バランスについては、定期的に栄養士に相談し、アドバイスをもらい不足栄養分の把握に努めてバランスある栄養摂取している。献立係が毎日のメニューを検討してくれている。全体ミーティング時、他の職員からのアドバイスやアイデアももらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種は全員行っている。また、インフルエンザ予防は加湿を行い、ノロウイルス予防は手洗いうがいを行っている。その他の感染対策は、マニュアルに基づき対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台ぶきん・スポンジ・三角コーナー・まな板はハイター消毒している。食材については、毎日入居者と買い物へ出かけ、新鮮なものを購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には、物干し台・菜園があり、近所の方にも気軽に来ていただき、菜園のアドバイスや野菜・花などももらっています。玄関周りには、季節感を出すためその時期に合わせ飾り付けをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者が作られた作品（習字やカレンダー）を掲示している。また、手作りされたカーテンやマットを使用し暖かみのある雰囲気を出している。リビングテーブルには、散歩に行かれ摘まれた草木花を生け花し、季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの他ソファもあり、テレビを見る時や新聞を読む時、うたた寝をする時など自然と座っている。食事時、おやつ時、お話しでにぎやかな声がとびかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとりひとりが、自分に必要なもの。大切にしているものを持ち込まれ、それぞれが居心地よく、落ち着く空間を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日には、窓を開け換気をしている。冬場には、加湿器を設置し、乾燥を防いでいる。冷暖房の調整には気を配り、こまめに調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、家庭用運動器具を置き、自らがやりたい時に運動不足の解消をしている。玄関にはいすを置き、はき替え時の安全に努めている。また、食器類は誰でもが取りやすいよう、下の棚へ置いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	カレンダーは、毎月手作りの季節感ある見やすいものを作成し、日付の確認をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物は、富士山が望める南向きに物干し台を置き干している。おもに春～夏場、西側に畑があり、あすなるデイの利用者や近所の方にお手伝いを頂きながら、菜園を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	①毎日ある
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/>	③たまにある
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="checkbox"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月行事計画をし、実施している。2ユニットあるので親睦を深めあったり、季節に応じ戸外へバス旅行したり、年中行事を行っている。
- また、家族参加型の行事にしていけるよう努力し計画している。
- ・隣接してるデイケアの利用者との交流。週3回MT指導により、音楽療法へ参加し楽しんでいる。